

## 第30回 全国トンボ市民サミット 横浜大会 準備会設立ミーティング 報告

日 時：2017年2月19日（日）14:00～17:00

場 所：生麦地区センター

参加者：11団体28名

### 内 容

#### 1. 趣旨説明

#### 2. 基調報告

2016年度京浜臨海部トンボ調査（トンボはどこまで飛ぶかフォーラム 田口正男氏）

舞岡川ハグロトンボ調査（舞岡中学校 宮崎裕明氏）

#### 3. 第30回全国トンボ市民サミット（横浜大会）開催に向けた準備会

開会挨拶 横浜にとんぼを育てる会会長 有吉和夫

参加団体活動紹介

#### 4. トンボサミット開催に向けた意見交換

トンボサミット開催に向け3つのテーマ（大会コンセプト、大会運営、大会プログラム）について、テーマ毎にテーブルに分かれ、15分の意見交換を3回実施した。参加者はすべてのテーブルに参加した。

#### 5. 意見のとりまとめ

意見交換では、テーブルテーマをクロスした意見が出された。このため、テーマ毎に出された意見を次のとおりとりまとめた。

### 1. 大会コンセプト

開催に関連して出されたキーワード

横浜らしさ、都市、若人、害虫じゃないし、世界への発信、高齢化、何でトンボ、日本（トンボがいる島、秋津島）、森ガール、川ガール、上手にファッション、響くような若い人、子どもが参加したくなるキーワードが良い、我が町のトンボ自慢の〇〇日間

トンボサミット開催の意義

人が住みやすく望ましい環境をつくる。その手段のひとつとしてのトンボ  
世界各国に比べて「文化的な象徴の意味合いが強い」。日本の伝統。トンボが愛される国  
エコアップを進めたことによってできた「とんぼ池（ビオトープ）の拡大」「子どもたちの教育」  
に活用できた事例などを全国に発信したい

過去30回の全国の活動成果をシェアし、次の30回につなげる

トンボが飛び交う街づくりの再考

なぜトンボ？子どもたちが遊べる。採っても大丈夫。

何を発信するか

「横浜らしさ」

都市型自然とトンボ、トンボ池、幼、小、中、高、大の連携協働ができる全国に例がない事例  
都市部でありながら貴重なトンボがいる。

集まった力が横浜の多様性&パッション。横浜の30年間やってきた実績をみんなに知らせる  
トンボに限らない環境づくり⇒身近な環境に関心を持つきっかけとして全国に発信

⇒森さんの思いを振り返る（ホテル、エコアップ）

専門家でなくてもOK。気軽にお楽しみ感が大事。だから大勢の人を集めることができた。

まちのスケールメリット

学校ビオトープをリニューアルする時期 サミットをきっかけに情報発信する

○参加者について

敷居が低い、いろんな年代が関わることができる大会としたい

- ・子どもが参加できる大会。こどもたちを連れてきたい、損しないトンボサミット  
だれでも参加できるイベントにしたい！
- ・師岡で、親子で土にふれ合う機会を持つ活動を行っている。間口を広くしたい

## 2. 大会運営について

開催時期：9月前半で検討してはどうか

子どもたちが参加しやすい時期で生きものシーズンに開催したい

子どもたちや環境活動団体の夏の活動を終えてからやりたい

7月末、小学生はプールシーズンで難しい。8月末OK

9月末、シルバーウィーク：アキアカネが期待できるが運動会シーズン

9月1週目、2週目（トンボとり大作戦で大人数集まった）

冬：落ち着いて議論できるがトンボがない

開催場所：横浜らしい場所

企業施設：土日可能か、麒麟ビール、JFEシーフォーレなど

公共施設：開港記念会館が最適

大学：横浜市大、国大、神奈川大学、鶴見大、サイエンスフロンティア校、東京都市大  
などが検討される

資金：予算総額300～350万円、目標300万円

参加費外150万円から300万円の資金調達を目指したい

財源として、クラウドファンディング、民間、財団、助成金、企業寄付等が検討できる  
広告費1万円程度で分散させると集まりやすいのでは、

後援にメディア系を入れる：例えば神奈川新聞に記事にしてもらう

それぞれの団体出だすのではなく、連携団体として一緒に出すと、獲得しやすくなる

広 報：メディア対応&資金調達のセット

体 制：若者のネットワーク組み立てと合わせて

大学・高校生など若者とのかかわり方を考える

⇨中高校科学部、大学研究室との連携を検討する

大学のサークルから NPO へ発展する団体もあるので意識する

子育て支援の団体との連携も重要

バイト代が出せれば大学生を使える！

その他：お土産があるといい⇒ヤゴの見分け方図鑑

全国で開催したポスターの展示

### 3. 大会プログラム

開催日程：シンポジウム+エクスカージョン 2日間開催

プログラム概要：

シンポジウム：基調講演、全体会、分科会（本大会）

交流会、エクスカージョン（オプション）バス

シンポジウム：

有名人を基調講演に呼びたい←資金調達

横浜らしい事例報告、例えばトンボフォーラム

分科会テーマ：キーワード「子ども若者」、トンボがファッションになるような

横浜らしい内容で⇒誰でも見える、参加できる

残された水辺環境

自然科学的テーマ+日本の伝統、遊び⇒今後も文化となるような

身近なトンボを守ることですばらしい環境があると気づく

「子ども」子どもの人材に恵まれている⇒活動報告：夏・活動⇒秋・発表

「生態」外来生物の駆除など、横浜らしい課題の発信⇒行政を交えて議論が必要

「持続的な活動に向けて」学校のトンボ池の整備=人事異動の課題

活動団体の高齢化、ネットワークの再構築（特に若手）

「人」：企業活動と生物多様性に配慮した緑地保全

エクスカージョン：バスで市内を回る。エコアップ系、原風景のエクスカージョン⇒見せる！

企業内の緑地「新しい緑地」

横浜の原風景の緑地、昔からある緑地

夜のエクスカージョン（ヤンマ採り大会、ナイトウォーク）

⇒こんなおもしろい活動を横浜はやっているんだよというのを参加者に見せたい

## 第30回全国トンボ市民サミット横浜大会 第1回準備会 報告

日 時：2017年6月21日（水）19:00～21:00

場 所：開港記念会館

参加者：7団体10名

内 容：

- ①2月19日の設立ミーティングの振り返り
- ②本大会までのスケジュール確認
- ③大会に向けて活動を活性化するための取組
- ④大会のプログラムについて。

- ・活動を活性化する取組としては、学生や学校のネットワークに働きかける、生き物好きな家族をネットワーク化する、大会に向けてイベントを実施する、などの意見が出た。
- ・大会プログラムは、1日目午後からバスで現地見学し、夕方に懇親会、2日目午前に基調講演、午後は分科会実施というプログラムを予定。
- ・大会全体は、トンボに興味がある人だけではなく、一般の人や子どもなど、誰でも参加できるイベントにしたいと考えている。
  
- ・次回開催日は9/13（会場未定）19時～。